

令和4年度 第1回 国産材の安定供給体制の構築に向けた  
近畿中国地区需給情報連絡協議会 概要

■ 日 時：令和4年6月3日（金） 14:00～16:00

■ 場 所：【オンライン】Zoom ミーティング

■ 議事次第

- 1 挨拶： 西垣 泰幸 近畿中国地区需給情報連絡協議会 会長  
(西垣林業株式会社 会長)

本日の近畿中国地区第1回近畿地区需給情報連絡協議会には、国、12の府県庁をはじめ川上、川中、川下のそれぞれの業界を代表される方々総勢48名のご出席をいただき誠にありがとうございます。また、座長を務めていただいております京都大学の松下教授には心より感謝を申し上げますとともに引き続きよろしく議事進行・とりまとめをお願い申し上げます。

残念ながら、ウェブ会議に慣れてしまいますと、逆に対面形式での開催が難しくなるようではございますが、いずれ環境がゆるせば対面形式により相互理解をより深めさせていただければと思う次第です。

さて、前回の開催は昨年12月13日ということでしたので、ウッドショックの余韻を残しながらも、今年需要減少への対応や輸入品の供給不安が混在していたタイミングでございます。しかし、2月24日のロシアによるウクライナ侵攻により新たなリスクが顕在化したことで、急激な円安に加えエネルギー、食料関連をはじめとして我が国の国民生活にもさまざまな形で悪影響が及んでおり、住宅需要を冷やしてしまうのではないかという懸念を感じることもございます。

本日の会議は、そうしたさまざまな不確実な要素を踏まえながらも、国産材の安定供給を念頭にそれぞれのお立場から積極的なご発言を頂戴しながらとりまとめをまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが開会のご挨拶とさせていただきます。

- 2 議事 (座長：京都大学 松下 幸司 教授)

- (1) 需要動向について

木材輸入の状況、近畿中国地区の木材需要動向、近畿中国地区アンケート結果等について林野庁から資料に基づき説明。

(座長) ありがとうございます。どのグラフも大きな動きを示していて、一つ一つ重要なものだと思います。輸入量全体については回復してきていますが、ここへきてウクライナ情勢やロシア材の動きが不透明になってきています。また、世界全体の木材の動きがわかりやすく示されていました。

国内の木材価格についても、下がったとはいえ以前に比べれば高い水準にあり、合板のように依然価格上昇中のものもあるということでした。

これから、川下から順に皆様のご意見を頂戴していきます。今、林野庁から全国的な動向について報告がありましたが、全国的な動向との違いについても報告に含めていただければありがたいと思います。

それでは、前回の会議以降の変化、資材の入荷状況、新規の受注状況、価格転嫁の程度、国産材への代替が進んでいるのかなどについてお話いただきたい。

(一社日本木造住宅産業協会近畿支部事務局長 五所 克行)

12月以降大きく変わったというところはさほどないが、現在の木材の入手状況は昨年並み程度です。価格は高止まりとなっています。木材ではないが、住宅設備機器がベトナムのロックダウンの影響で一部不足しています。

新規の受注状況については、大きな変化はないがやや減少気味で推移しています。販売価格への転嫁については、各社まちまちです。材料の仕入れ値は上がっているので、注文住宅、分譲住宅、賃貸住宅によって考え方が違いますので、一律にはいかないが状況に応じて対応している状態です。

(一社JBN・全国工務店協会理事 安成 信次)

JBNは中小工務店の会ですが、各社により差が出ている。

構造材は、比較的国産材を使う会社が多いので、遅れはあるが入手はできているという状況です。合板は最近特に需要が上がっていて、3、4月は入手にかなり苦労したが今は少し落ち着いたところ。しかし今後、さらに上がるのではないかと考えています。価格は3～4割上昇した感じでしょうか。

価格の転嫁ですが、各社かなり差があります。例えば2千万円の住宅を建てる会社と4千万円の住宅を建てる会社では、今回の一連の価格の上昇で仮に150万円上がったとして、上がった比率からいうと少額の住宅を建てている会社の影響が大きく、高級住宅を建てている会社の影響は比較的少ないという状況です。したがって、今後も落ち着かない状況が続くことでしょうかから、材料調達、住設機器の遅れなどによる工期の遅延が中小工務店の経営をかなり圧迫することになります。

一方、需要については、4・5月から集客数が落ちているという話をよく聞きます。それも明暗がありまして、増えているところもあれば減っているところもありますので、今後の見通しをたてにくいところがあります。

ただ一ついいことは、脱炭素の流れです。地域工務店は比較的国産材の家づくりをやっていますので、私の事例でいうと、構造材も国産材、乾燥も天然乾燥、内装も自然素材ですので、通常の工業化住宅と比べると13～15%くらい製造時のCO2が下がります。地域工務店の武器である建設時にカーボンを下げられるという社会性を考えて、今勉強会で各社が自分の作っている住宅のインシヤルCO2の計算を始めています。40社くらいが計算をしているが、これが大きな流れになればJクレジットも将来考えられるのではないかと。こういった明るい将来も地域の住宅産業の中にはあると考えています。

(全建総連関西地方協議会・大阪建設労働組合 執行委員長 谷内 邦久)

私ども基本的に一人親方といわれる方が多い組織です。大阪の仲間にも話を聞いたところ、昨年の12月と比べるとあまり状況は変わっていない。住宅の価格に関しては高い状況で推移している。ただ、木質材料に関しては手に入っており、おおむね現場が止まることはないと考えています。給湯設備やトイレなどが入ってこないため現場がストップすることはあるようです。

全建総連として今年の3月から4月にかけて工務店を中心に全国的にアンケートをとったところ、住宅設備の納期の影響はあり、20日から30日、長いもので1ヶ月から2ヶ月入ってこないものもあると聞いています。

住宅の価格については、やはりかなり上がっているという話が多い。工事原価上昇に影響しているのは、やはり木材の影響が大きいようです。お客様への影響については、見積等が前もってしづらい状況がつついており、決まりそうになればあらためて見積りする状況です。

価格の転嫁については、お客様に負担してもらったというところと、自社で一部、または全部負担しているところがある。価格転嫁できなかった理由は、既に見積書を提出して契約していたため自社で負担したというところが多い。

(ナカザワ建販(株)執行役員プレカット事業部長 東 秀光)

合板を含めた木質建材の入手状況についてですが、合板に関してはその日暮らしの感じですが。床合板については、同業者の工場間で貸し借りしながらなんとかやっている状況です。面材の方が厳しい感じがしています。それ以外の材料に関しては、逆に在庫量が各社とも非常に多い状態です。新規の発注を減らさなければ置く場所がない状態ですが、急激に減らすこともできず、新たに倉庫を借りている業者がほとんどなのかなという状態です。

スギの集成柱に急激に不足感が出ています。発注しても今はお断りという状態で、ホワイトウッドの価格が上がったことによって、少し安いスギの集成柱に流れているようですが、合板にスギが回っているというのもありますし、全体的に不足感が強い状態です。スギの集成柱がないので多めにあるホワイトウッドで対応するようなこともあります。

新規の受注状況については、去年の12月以降かなり低調なかたちで推移しています。90%くらいの稼働とか受注が続いていまして、ようやく5月になって少し増えたかなというような感覚は持っていますが、全体的にみるとやはり暇な状態が続いています。材料もあったり無かったりなので、各社とも積極的に仕事を取りに行けるかとか、材料の価格が高いのでお客様に持っていてもお客様の方でもあまり価格転嫁できないということもあって非常に苦戦している状態が続いています。

ロシア関係では、弊社は柱の入荷が多かったもので、いったんホワイトウッドの柱は入荷が減るので多めに持っておかなければという状態です。

価格に関しても、先ほどの合板の話であれば1年前の倍くらい、千円だったものが二千円になったりしていますので、まるまる価格転嫁できるかは微妙な状態と思っ  
ていますが、合板に関しては今月も上がりましたので引き続き上がっていくものと思っ  
ています。構造材に関しても、ウクライナショックがあってから瞬間的に各集成材メー  
カーのラミナの調達状況の雲行きが怪しくなったのですが、何とか入手できている形  
です。しかし、為替やフレートが影響しますので、先々構造材に関しても一段上がって  
いくかなと見通しています。

代替状況に関しては、スギの集成材不足も踏まえてなかなか使えない。合板に関して  
は、中国産の合板が最近よく入ってきていますが、品質面にバラツキがあるとよく聞き  
ますので、各社とも加工前に検品している状態です。

(座長)

川下から4名の方からご発言いただきました。

住宅設備機器の納期の遅れとか価格転嫁の話がありました。特に最初のお二人からは、各社状況が違うという話が共通していました。それでは、川中の方に進めます。川中にはいろいろな業態の方が入っておりますので、8名の方からお話をいただきます。現在の生産状況、原料の確保状況、前回からの変化、今後の見通し、国産材への変換の見通し・可能性などについて伺いたいと思います。

(院庄林業株式会社営業部 小西 陽平)

製材用丸太の仕入れの状況ですが、潤沢に入っています。去年のような価格変動もなく、先ほどの林野庁資料のような価格帯で全体的に推移しています。

岡山県は今田植えの時期なので、兼業されている方の影響もあり出材が減っている時期ですが、販売の方も今は弱い状況なので仕入れの方も特に影響はない状況です。

今までと違う点としては、去年4寸の材料に非常に品薄感が出ましたが、今年については4寸の材料が余り過ぎている状況があります。これは、集成材も同じで、去年4寸から3.5寸に需要が変わってしまったという影響があるかもしれませんが、集成材も4寸の動きが非常に悪いです。ラミナも潤沢ですが、4寸の材料が非常に残っているという感じがあります。

販売に関しては、ハウスメーカーから地場の工務店まで幅広く取引していますが、大小にかかわらず受注があまりよくないのかなという感じがあります。一方で、分譲系のビルダーは国産材への動きなど逆に荷動きがいいように感じています。

弊社でも国産材に関してはヒノキを挽いていますが、製材工場から集成材工場にラミナを持って行って集成材の国産材比率を上げる取り組みを行っています。

(中国木材(株)経理部兼山林事業部副本部長 荻原 直樹)

当社の米マツについては、環境の変化を四重苦と呼んでいます。一つは産地価格の上昇で、先ほどの林野庁の資料でも紹介されたように、アメリカの住宅着工年率換算180万戸というのがだいたい変わらなくて、なかなか下がらない。輸出より国内需要を賄うことで一杯で、輸出に関するインセンティブがない。したがって、産地価格がなかなか下がらない。

二点目は、バンカーオイルの上昇ということで、ご案内のようにロシアのウクライナ侵攻で原油価格が上昇しています。相当ながら燃料があがっているので、当社であれば滞船一日するだけで相当の燃料代を払うことになりますので、コストアップにつながります。

三つめは、傭船料の上昇です。バンカーオイルと傭船料を原価の15%程度で見ているのですが、これが1船当たり数億円のコストアップになっています。

四つ目は、円安です。日米の金利差の影響でしょうが、これからドル円で130円を超えていくと感じておまして、これらが米マツにとっての環境悪化となっています。

昨年まではだいぶ価格転嫁をお願いしていましたが、年明けからはしていません。これは、欧州材の流通在庫が多いためです。コロナの影響で欧州からなかなか材が入らなくなるという予想で、相当流通在庫を増やしたため需給はゆるんでいます。したがって、

米マツは欧州材の流れを見て多ければなかなか値を上げられない状況となっていますので、値上げができません。

当社としては国産材に向かわざるを得ないのですが、出材は去年の秋から見るとだいぶ上がってきていますが、ボトルネックは乾燥能力です。当社としても窯の能力から乾燥に2週間必要ですので、前年を少し上回る程度の増産で手一杯です。国産材から見れば非常にチャンスなのですが、歯がゆい思いをしています。

当社、山もやっておりますが自社林も持っていますが、8千haくらいですね、最近林経協の会議の中で、今後主伐・再造林をするとJクレジットがやりやすくなるという話がありました。今までは主に間伐が対象で収支が黒字だと駄目よという感じだったのですが、皆伐を含むプロジェクトも再造林の条件付きで認められやすくなるよということのようで、採算の難しかった社有林の伐採についてJクレジットも加味して出材を多くしていきたいと考えています。

(㈱オロチ代表取締役 相見 晴久)

現在のところフル生産を長期間続けています。国産材しか扱っていませんので、原木については若干余裕が出てきた状況です。2ヶ月分位の在庫を持っているので、潤沢に集まりだしたなという実感です。

価格については、ほぼ横ばいの状況で、3m材などはかなりの値段もしているが、4m材は落ち着きつつある。ヒノキについては、昨年末と比べるとかなり下がってきています。

私どもではヒノキ15%、スギ85%の使用状況です。今日オーダーいただくと、9月納期という状況が長期間と続いています。作っても作っても追いつかない状況です。5月に9日間連休にしたので、そのつけをフル生産しながら挽回している状況です。

生産しているLVLは、構造用に45%、羽柄が55%の割合で出荷しています。今まで中国のポプラを使っていたお客さんが、ここにきて国産材を採用していただいているという現状です。今後の見通しとしては、来年の春くらいまでは現状のフル生産が続くと思っています。価格は、合板のように上げきれていません。それなりにという程度です。

(林ベニヤ産業㈱課長代理 志岐 涼)

現在の生産状況については、暖かくなってきて順調に生産していますが、相変わらず大きな受注残をかかえながらの生産です。乾燥等の生産性が上がってきていますので、12~2月の平均と比べると5月では15%ほど生産量はアップしています。

原木の確保状況は、国産材は順調に入荷しています。1月、2月は積雪の影響で入荷が減ってちょっと慌てた時期もありましたが、ここにきて順調に集まってきて4月5月でみるとコロナ前とほぼ変わらない状況になっています。海外の方も同じく、去年から船のスケジュールが乱れていましたが、今年に入ってから順調に入荷しています。

単価については、米マツは為替のリスク、船賃の高騰等で非常に高いものとなっています。

国産材への転換ということですが、もともと80~85%を国産材使用としておりますので、基本的に国産材メインで合板を製造していますが、今回、安定的に集材するということが如何に大切であるかということが身に染みてわかったような状況ですので、な

るべく近距離からの集材を増やすように考えなければと思っています。それが脱炭素社会の方向性にも沿うと思いますので、近場からを大前提にして、遠方からのものは安定的に入るシステムを検討していくということを考えています。海外からの原木の仕入れに関しては、今回のロシア・ウクライナのことでも判りましたが、政治リスクも考えた方がいいと思っています。

今後の生産体制としては、早生樹などの新しい樹種への対応について、今まで使ったことのないような樹種を試験的に生産してみるような試みも積極的にやっていきたい。こういうことは工場の方が嫌がるのですが、ウッドショックで大分苦労しましたので、今ならわりと受け入れてくれます。乾燥時間、プレス仕方など違いますので、いろいろテストしながらやっていきたいと思っています。

(三重県木材協同組合連合会専務理事 前田 勉)

ウッドショックのあと製品価格が高止まりの状況が続いています。流通業の方は増益につながっているようですが、製材業の方は原木も高くなっているため収益があがるような状況ではないと聞いています。

石油製品の値上がり、電気代の値上がりなどから住宅に係る経費も大きくなってまして、従来の規模の住宅では売りにくくなってきたので、住宅ローンに合わせて小規模に設計変更して販売しているという話を聞いています。今後のことを考えると怖いものがあるなという状況です。

国産材への転換については、すぐに転換というのはなかなか難しく、伐木作業員の高齢化等の課題は多いとの話です。当面3カ月程度は現状で推移すると見えています。

(一社) 広島県木材組合連合会事務局長 神川 勇人)

広島県の住宅着工戸数1472戸(3月)で、ここ11カ月は対前年増でしたが12カ月目にして対前年減となっています。特に、広島市は前年同月比△14.2%で減少が目立つところ。木材価格は高止まり、資材価格は高騰などで住宅建築の価格アップなどが原因と思われますが、プレカット工場も少し厳しい状態という話が入ってきています。

梱包用製材については、ニュージーランド材が運賃や円安の関係で1割近く値上がりの方向で、スギの割合を高めて対応しているという状況があります。

国産材の価格は、おおむね横ばいではあるが、スギ・ヒノキの一部ではまだ値上がりが残っている状況です。米マツの丸太も船賃の上昇や円安で価格上昇につながっています。

今後3カ月については、住宅着工は厳しいのですが、県産材住宅として県が支援している住宅などがありますので、そういったものがプレカットにどのように影響してくるのかを見ていかないといけない。全般的には、ウッドショックや木材価格の高止まり、円安、ロシア情勢などについてこれから注意していかなければならないと思っています。

(王子木材緑化(株)大阪支店呉営業所長 櫻井 道弘)

紙の生産状況は、昨年度に続き計画どおりの生産を続けています。大きな生産体制の変更はありません。

原材料の確保状況については、製紙原料チップはほとんど確保できています。

輸入チップは、北米、豪州、アジアともに需給がひっ迫しています。林野庁の資料にもありましたように、チップの在庫が厳しくなっていて、これからますます厳しくなると予想しています。

国内チップは、計画通り調達できていますが、原木費用、輸送費が上がっていますので、段階的に順次値上げを行っています。

(株)日本海水電力事業部副事業部長 菊地 泰博)

発電所全体の原料調達状況については、数量は確保できています。出力も下げることなく、運転を継続しています。

残念ながら国産材の調達については非常に厳しい状況になっています。昨年度第四四半期、今年の第一四半期いずれも、建設資材廃棄物を含めた国産材は10%程度減少の見通しとなっています。理由としては、脱石炭等、化石燃料から、建設資材廃棄物をはじめとした木質系燃料に切り替えるといった、CO<sub>2</sub>の排出量を減らしていこうということの影響が出てきていると調達先から聞いています。それに加えて、昨今の石炭価格の上昇から木質系の燃料に切り替えていくということの影響が出ていていると聞いています。

一方、輸入材については、数量は何とか確保できていますが、フレート価格の上昇、燃料価格、バンカーサーチャージなどの上昇、さらには円安ということで非常にコストアップになっています。国産材への切り替えを進めたいと考えていますが、なかなかいい方法がありませんので、数量的には厳しいのですが、近くで焼却処分されているものがないかとか、林地残材を少しでも発電所まで持ってきていただけないかというところを関係先と調整しながら進めている状況です。

(座長)

国産材、輸入材それぞれ異なる話がありました。輸入材は中国木材さんから四重苦という話がありましたように価格が上がっているということです。一方で国産材についても、調達量を増やしたいが増やせないということだったと思います。

続きまして最後になりましたが、川上の状況について、この春から夏の生産状況、今後の生産見通し、山林所有者の反応、木材価格に対する意見などについてお話を聞きたいと思っています。

(近畿中国森林管理局森林整備部長 清水 隆典)

国有林の今年度の木材供給の考えですが、3月の国有林材供給調整検討委員会の状況を説明します。国産材丸太は、製材工場等の在庫の確保によって一時期の価格の高騰は落ち着いてきている。山側の積極的な出材もあって、ヒノキは地域によってはだぶついている状況が見られる。一方、スギやB材、C材は未だ不足している状況にある、というのが3月の状況でした。

先程のお話をうかがっていると、スギも個々の需要者の状況によって違いが現れてきているようで、苦労しなくても集まっているというところもあれば、引き続き原木調達に苦労しているところもあるようです。共通しては、B材、C材、特にC材は、未だ不足している状況にあると考えています。

輸入木材は、海上運賃の上昇などにより不足している状況にありましたが、石油価格

の上昇、ウクライナ情勢に伴う国際的な木材の需給動向等懸念材料が多く不透明感がさらに強くなっていると 3 月の調整委員会での話でしたが、現在も変わらないのかなと考えています。

今年度の国有林材の供給については、地域での樹種や用途等の需要の動向、民有林材の供給状況、輸出入の状況について情報収集を行いながら、素材生産事業の早期発注や立木公売の早期実施等により国有林からの素材及び立木の安定供給・販売に努めるということが基本的なスタンスです。

今年度の木材の販売予定は、丸太販売が 11 万 m<sup>3</sup>、立木販売が 59 万 6 千 m<sup>3</sup>、あわせて 70 万 6 千 m<sup>3</sup> で、この数字自体は昨年度の計画と概ね変わりはありません。昨年度との違いは、極力早期に木材を供給するため、5 月末までには素材生産事業の入札公告を概ね終わっております。このうちの 5 万 m<sup>3</sup> は契約を終わってしまして、極力早期に丸太を供給したいと考えています。また、立木販売の入札の公告も 5 月末までに 17 万 m<sup>3</sup> の公告をしています。昨年同期は 11 万 m<sup>3</sup> だったので昨年より多めに入札にかけています。請負事業体の話では、民有林の仕事も潤沢に出ているということで、忙しいということです。なお、これから梅雨に入りますので、事業の遅れなどが懸念されるどころです。

(森林研究・整備機構森林整備センター中国四国整備局水源林業務課長 宮本 忠輔)

近畿中国の管内では、約 17 万 ha の水源林造成事業地があります。今年度の近畿中国地区における販売予定数量は、間伐で約 2 万 m<sup>3</sup> (立木材積)、主伐等で約 10 万 m<sup>3</sup> の生産を予定しています。

山林所有者からは、ウッドショックということもあり伐ってほしいという要望は出ています。ただ、センターの準備や伐る方の人手不足などで、なかなか要望に答えきれない状況です。

供給側からすれば立木の価格は高いほどいいのですが、今くらいの価格が適正ではないかと個人的には思っています。

森林整備センターでは、国産材の安定的な供給が求められていることを踏まえて、計画的な育成複層林造成のための更新伐、集積間伐の推進により、地域の木材需要にこれからも貢献していければと考えています。

(兵庫県森林組合連合会業務第一課主任 稲月 秀昭)

生産状況は、例年通りの計画を予定しています。生産量の見込みは、労務関係の事情等で増加させるのは難しい状況です。安定供給できるように生産体制を整えたいのですが、そこに至っていない状況です。

森林所有者の反応は、原木価格が高いことは分かっている、販売の希望があることは聞いています。

木材の価格については、現状程度は維持したいと思っています。

(鳥取県森林組合連合会販売事業課長 古都 誠司)

春から夏の生産状況については、昨年の大雪の被害がかなり大きくて、例年に比べ道付等の作業が一部の地域で遅れてしまして、県内全体では多少例年より遅れていると思っています。だいぶ戻ってきていますので、夏から秋にかけては例年通りの生産量と

思っています。しかし、現場の労務、作業班の確保、さらには皆伐現場の確保等を進めていかなければならないと思っています。

森林所有者の反応は、材価の値上がりをうけて皆伐してたくさんお金が返ってきたというのを聞いて、今、木を出して欲しいと言われているところが多いです。しかし、準備だとか作業の体制のためだいぶ待っていただいているというのが現状です。

木材の価格については、ある程度今の状況が続けていくのが望ましいが、先々安定した価格をお願いしたい。そのためには安定した国産材の生産が必要と思っていますので、今後努力いたします。

(大林産業(株)代表取締役 大林 真信)

現在、月当たり 5 千 m<sup>3</sup> の素材生産を行っており、今後もその計画です。価格については、立木価格についてはウッドショックのいい影響がまだ反映されていません。やはり、素材の蓄積量に対して素材生産者が少なくなってきたということもあるかと思えます。素材生産者にとっては買手市場になっているかとは思いますが、今後このような製品価格が続くようであれば、立木価格にも反映してくると思えます。

特にこの時期の原木は水分をたくさん吸っているので、滑りやすく労働災害が起こりやすい時期になっています。当社でも一昨日にグラップルで木寄をしている時に上から木が滑り落ちてきてグラップルの運転席を直撃したという大きな事故が起きてしまいました。今の時期は労働災害に非常に注意しなければならないと思っています。加えて、危険な労働に見合った賃金を維持していかなければならないので、原木価格をある程度高い水準で維持していただけるよう川下の方にもご協力をお願いしたいと思います。

(株)八木木材取締役 八木 数也)

今日午前中に、兵庫県の原木市場が一か所、岡山県が二か所、島根県で一か所、計 4 か所の原木市場の木材を仕入れてきました。今日現在、ヒノキは余り気味です。2 千円から 5 千円くらいヒノキは下げたように思っています。

外材から国産材へのシフトというのが大きな流れだと思えます。ここ 1 年余り、間伐から皆伐に我が社は変えてまいりました。その中でフル生産をしている訳ですが、ヒノキは若干人気が悪くなってきたがスギの人気がいいということで、素材生産をスギにシフトしている関係で生産量は多くなっています。

外材から国産材に代わってきたことによって、大量の発注があります。特にスギは大変な発注量になっています。そのうえ 9 月から大阪万博が動き出します。今も見積もりをたくさんいただいておりますが、この中でこれだけの設計に対して何割できるのかというのが現状です。3 割なのか 5 割なのか、とりあえずやれるだけやってという感覚みたいです。ですから、値段は合板の今の工場着の分岐点より高くてもいいくらいのところ。次に、素材生産者は何を取引相手としてやっていくのかを 9 月までに判断する必要があると思っています。

木材の適正価格は、再生林ができて、なおかつ若干の利益がでるのが適正価格だと思います。現状は、まだまだ先は遠いと思えます。

最後に、木材のランクごとに過不足が出ているのは品質の問題です。木材が不足したため少しずつランクの上のところに吸い上げられているのです。ですから、D 材が不足

している、燃料チップがない。逆に今ヒノキは、A材利用から下に降りてこようとしています。

(住友林業フォレストサービス㈱大阪営業所所長補佐 藤川 学)

原木の生産状況については、12月から少し弱まってきているのかなと思っています。原木の生産は、1月2月の大雪を経て3月以降は順調に進んでいます。

国内で大きな影響のあったのが、上海のロックダウンです。年初から中国への輸出の引き合いが減少し、それが一部国内に流れたようです。国内の流通では、12月以降内航船による流通が増えてきた印象があります。

今後の見通しですが、全体に値上がりしているのですが、この先需要が期待できないと思うのですが、一方で外材が入りにくい状況は中長期的に変わらないので、国産材への移行がますます進むと思います。取引先に伺うと、価格転嫁ができていないところとそうでないところがありますが、ニュージーランド材からスギへの転換など国産材への移行が進んできているようです。

国産材の流通を確実なものにしていくためには、再造林ができて少し利益が残る程度の適正な材価が必要不可欠だと思います。九州を中心に再造林ができないエリアが増えていると聞いていますが、再造林出来ての伐採と思いますので、今後ともそういう観点から流通を考えていきたいと思っています。

(西垣林業㈱部長 丸谷 昌之)

素材生産状況については、例年と比較しても順調に進んでいます。原木価格も比較的安定していますので、がんばって素材生産を進めているところです。ただ、時期的に自然災害の可能性もありますので生産量が減少する可能性もあります。

森林所有者の反応については、木材価格の高騰で出材意欲は非常に高まっています。しかし、素材生産能力や運送の課題が改善されていないので、難しさが残っています。安定供給できる体制づくりを継続することで、山側からしっかりと材が出てくると考えています。

山側は不安定な状況ですので、川下からしっかりと長期的、安定的に数量や価格を提示してあげて、再造林まで行くようなかたちで循環型の山を作っていくことが必要になってくると考えています。

(座長)

以上で、需要動向についての議題を終わりにして、次の議題に進みます。

- (2) 国産材への転換等への支援について  
(国産材転換支援緊急対策事業ほか)

林野庁から資料に基づき説明。

- (3) まとめ

(林野庁)

長時間お疲れ様です。貴重なご意見をいただきありがとうございます。木材を使用

する川下サイドでは木材が高くなっていることで大変な思いをされているということを感じました。一方で、川中・川上では循環的な経営のためはある程度の木材価格が必要だというご意見が多く、適正価格というのは難しい問題だと思いました。

国産材への転換とか、樹種の変更などが目まぐるしく動いていることが分かりました。いろいろと工夫頂いていることはありがたいことですし、林野庁としても後押しをしていかなければならないと感じたところです。これからも、いろんな情報をお届けする場を設けていきたいと考えています。本日はありがとうございました。

(西垣会長)

本日はそれぞれの様なお立場の中で、いろんなお話を承りました。いろいろお話を聞いていると何がどうなのかわからないくらいの激しい動きということも同時に感じました。

近畿中国地区の一つの特徴として、古い林業地が点在している地域ですので、様々な樹種を使うということがあります。例えば、プレカット工場さんも様々な樹種をお使いになっている。若干非効率かとも思いますが、地域の需要がそれぞれありますのでそれに合わせて使っている。

それに対して、例えば集成管柱ですが、ホワイトウツドの集成材は海外からまとまって入ってくる。それが厳しいとなると、やわらスギの集成材工場に発注をかける。しかし、スギの集成材メーカーは、輸入品に比べ圧倒的に規模が小さいので、なかなか発注に追いつけない。そこに需給のミスマッチが生じる。

国産材が産業として、川上から川下まで十分に整理されていない状態にあるということが根底にあるということをご理解いただければ、少しはこの地区の面白さというようなものを感じていただけるのではないかと思います。

国には、折に触れいろんな支援をしていただいております、業界人としてありがたく思っております。このような中、先人が苦勞して植えてくれ、育ててくれた山の木を、今まさに収穫期として使わせていただく段階にきております。一方で、植林が少し遅れているということも大変気がかりですので、せっかくの木材を私たちの代で絶やすことなく、循環型資源として続いていくように、業界人として一丸となってやっていかなければだめなのではないか。そういうことで真の国産材時代に繋がっていくのだろうと思いました。

これからも引き続き、川上から川下まで一体となって、いろんなお話をさせていただき、ご理解をいただき、そしてそれが更なる需要拡大につながりますことを祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

(座長)

ありがとうございました。

コロナからウッドショック、さらに前回会議の12月には予想できなかったロシア関係と、まさに次々と新しい大きな動きがあり、いろいろな動きを見ていかなければならないと思います。今日の話の中に、様々な課題がありましたが、急にどうこうなるものではないという気もしますので、このような状態はしばらく続くように思われます。しかし、新しい話もあちこちにありました。この需給連絡協議会は、川上から川下まで幅広くカバーし、また、状況が異なる地域が含まれています。本協議会は情報共有という

点で一定の役割を果たしているのではないかと思います。

今後、各地で地区別協議会が開かれ、6月21日に中央の需給連絡協議会が開催される予定です。いずれの結果も林野庁で取りまとめて、皆さんと情報共有することです。本日はありがとうございました。